

# 研究員 の眼

## 株式相場に左右される株式ファンドの売買 ～2019年9月の投信動向～

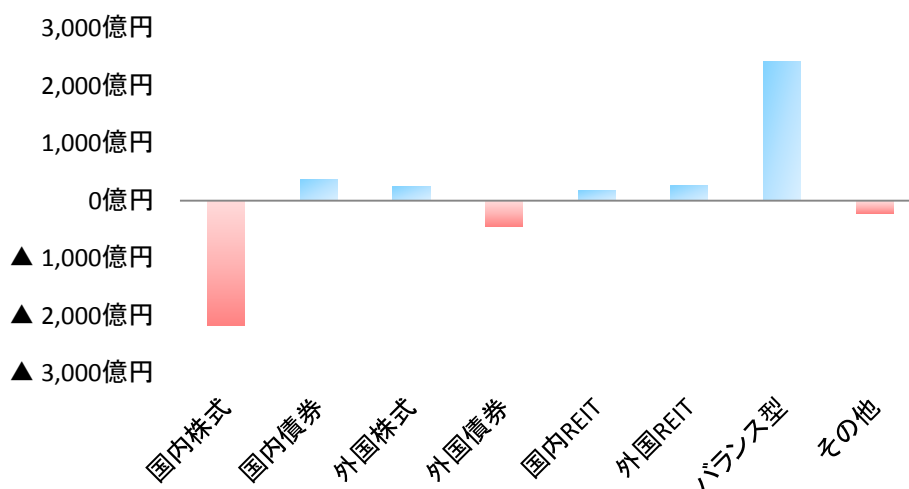
金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮  
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

### 投信販売が急減速

2019年9月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、9月はバランス型に2,400億円の資金流入があった【図表1】。その他に国内債券、外国REIT、外国株式、国内REITにも資金流入があったが、どの資産クラスも500億円以下で小額だった。その一方で、国内株式からは2,200億円の資金流出があり、外国債券からも500億円弱の流出があった。ファンド全体で見ると、バランス型への資金流入と国内株式からの資金流出が同規模であったこともあり、9月は600億円の資金流入となった。ファンド全体で3,500億円の資金流入があった8月から急減速した。

バランス型への資金流入は、8月の1400億円から1,000億円も増加した。9月は特定のバランス型ファンド【図表2：赤太字】が引き続き人気で販売が堅調だった上に、確定拠出年金専用ファンドに大規模な資金流入があった。

【図表1】2019年9月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】2019年9月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	9月の推計純流入	純資産 9月末時点
1位 グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	431億円	1,962億円
2位 ビクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ビクテ投信投資顧問	379億円	8,329億円
3位 グローバル3倍3分法ファンド(隔月分配型)	日興アセットマネジメント	251億円	1,005億円
4位 グローバル・プロスペクティブ・ファンド	日興アセットマネジメント	215億円	1,998億円
5位 東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	187億円	6,594億円
6位 ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和証券投資信託委託	176億円	3,037億円
7位 東京海上・円資産バランスファンド(年1回決算型)	東京海上アセットマネジメント	162億円	2,302億円
8位 ダブル・ブレイン	野村アセットマネジメント	160億円	623億円
9位 リスクコントロール世界資産分散ファンド	アセットマネジメントOne	134億円	450億円
10位 ダイワ米国リート・プラス(毎月分配型)為替ヘッジなし	大和証券投資信託委託	105億円	779億円

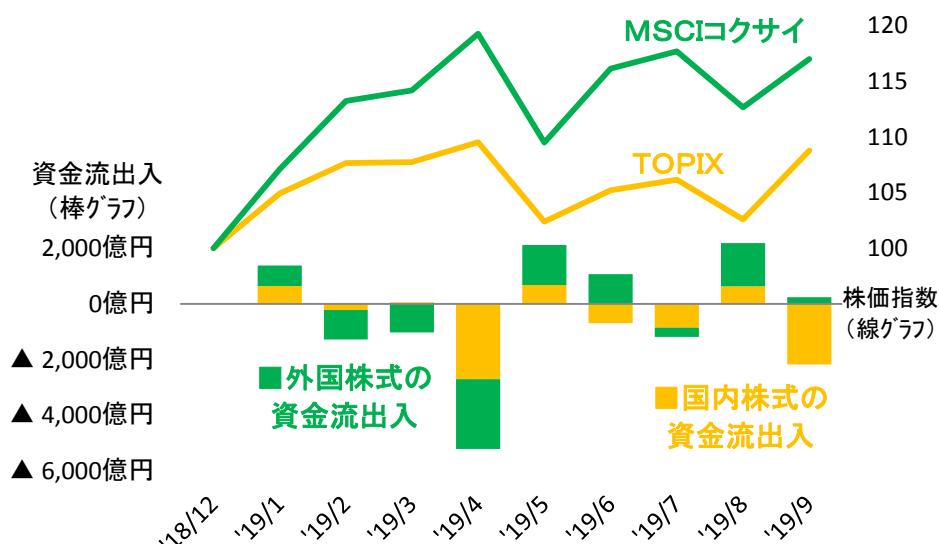
(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

## 株価上昇が株式ファンドの販売の重しに

その一方で国内株式は、8月の600億円の資金流入から9月は2,200億円の資金流出に転じた。4月の2,700億円の資金流出に迫る規模であった。国内株式のインデックス・ファンド（SMA専用、DC専用は除く）には8月に850億円の資金流入があったが、9月は一転して1,200億円の資金流出となった。それに加えて、9月は国内株式のアクティブ・ファンドからの資金流出も8月以上に増加した。国内株式はファンドのタイプによらず総じて売却された形である。9月は月を通じて国内株式が好調であったため、利益確定のため売却する投資家が多かったようだ。

また、外国株式も資金流入こそしたが、240億円と8月の1,560億円から大きく鈍化した。世界的に株価が上昇したことが影響したものと思われる。2019年以降の外国株式の資金動向（緑棒）をみると、国内株式（黄棒）と同様に2月以降は株価の動向に左右されている傾向が確認できる【図表3】。世界的に株価（MSCIコクサイ：緑線）が下落した5月、8月は資金流入がある一方で、上昇した2月、3月、4月、7月は資金流出、もしくは流入が鈍化した。なお、6月は株価が上昇しているが、1,000億円を超える資金流入であった。これは新設された外国株式ファンドの大規模設定の影響であり、既存ファンドに限ると資金流出だった。

【図表3】国内株式と外国株式の資金流入



(資料) Morningstar Direct より作成。2019年9月の資金流入のみ推計値。  
TOPIX、MSCIコクサイ(円建て)ともに配当込みで2018年12月末を100として指数化。

外国株式では、足元でも投資家の人気を集めるファンド【図表2：青太字】がある。しかし、2018年以前のように投資家の人気を集めるテーマが少なく、また米中問題や世界経済の先行きに対する不透明感も強い。そのため、特に株価が高値圏にあると外国株式への投資を控える、もしくは保有している場合は国内株式と同様に利益確定するため売却する投資家が多いのかもしれない。

## トルコ関連ファンドが好調

9月にパフォーマンスが良好であったファンドをみると、トルコ関連ファンド（赤太字）が好調であったことが分かる【図表4】。9月は円安に加えてトルコ・リラ高も進行し、トルコ・リラは対円で4%以上上昇したことなどが追い風になった。

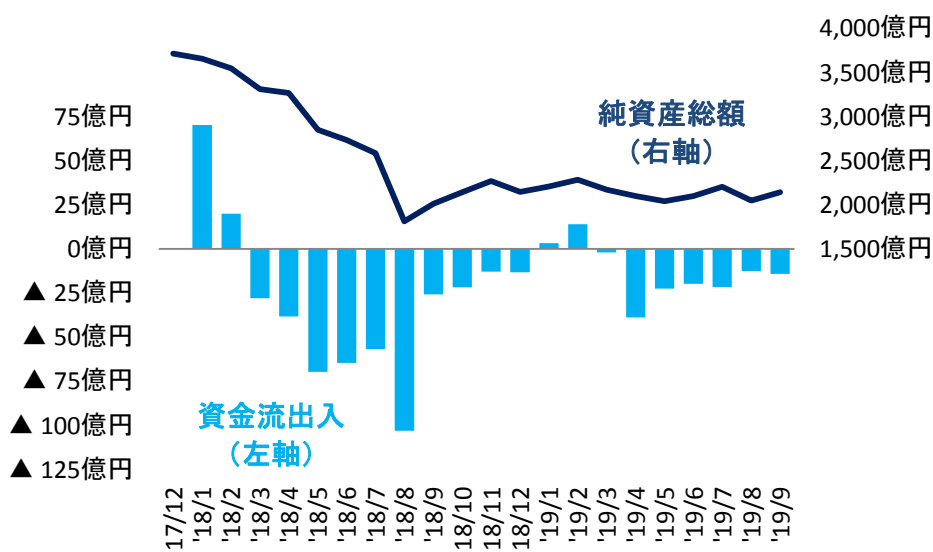
トルコ関連ファンドの中で純資産総額が大きいトルコ・リラ通貨選択型ファンドの資金動向（棒グラフ）をみると、2018年3月から足元まで資金流出基調が続いている。特にトルコ・リラが急落した2018年8月の「トルコショック」の時には100億円を超える資金流出があった。ただ、トルコショック以降は流出金額が大きくても40億円程度であり、小規模な資金流出となっている。純資産総額（線グラフ）をみても、トルコショック以降は2100億円程度で安定している。トルコショックを経験したにもかかわらず、その後もトルコ・リラ通貨選択型ファンドに辛抱強く投資している投資家が意外に多いようだ。

【図表4】2019年9月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	9月の収益率	過去1年収益率	純資産 9月末時点
1位 <b>日本株厳選ファンド・トルコリラコース</b>	三井住友DSアセットマネジメント	15.6%	13.7%	22億円
2位 <b>野村日本ブランド株投資(トルコリラコース)年2回決算型</b>	野村アセットマネジメント	15.0%	13.8%	23億円
3位 <b>野村日本ブランド株投資(トルコリラコース)毎月分配型</b>	野村アセットマネジメント	15.0%	14.0%	80億円
4位 <b>トルコ債券オープン(毎月決算型)為替ヘッジなし</b>	三菱UFJ国際投信	13.4%	65.2%	18億円
5位 <b>トルコ株式オープン</b>	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	13.2%	12.4%	41億円
6位 <b>トルコ・ボンド・オープン(毎月決算型)</b>	大和証券投資信託委託	13.1%	49.8%	143億円
7位 国際・キャピタル 日本株式オープン(通貨選択型)ロシア・ルーブル(毎月決算)	三菱UFJ国際投信	12.8%	-10.0%	56億円
8位 <b>ライジング・トルコ株式ファンド</b>	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	12.7%	15.4%	15億円
9位 野村日本ブランド株投資(アジア通貨コース)毎月分配型	野村アセットマネジメント	12.6%	-13.8%	22億円
10位 野村通貨選択日本株投資(メキシコベソコース)毎月分配型	野村アセットマネジメント	12.6%	-13.0%	24億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2019年9月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

【図表5】トルコ・リラ通貨選択型ファンドの資金流入と純資産総額



(資料) Morningstar Direct より作成。2019年9月の資金流入のみ推計値。

---

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。